

発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

ラグビーワールドカップ 2019™ での文化財 PR イベント

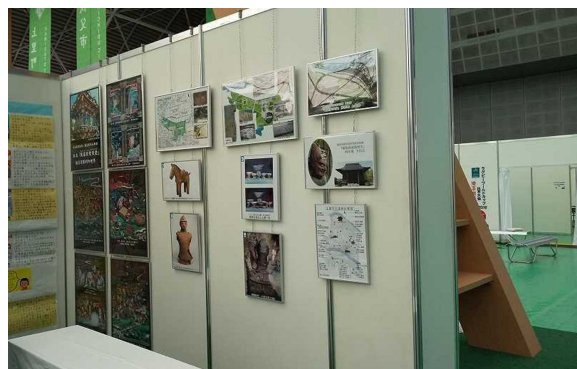
ラグビーワールドカップ 2019™ の熊谷ラグビー場での開催にあたり、本市の文化財PRをおもてなしエリア(くまがやドーム)で実施しました。会場となった熊谷スポーツ・文化公園は北島遺跡という、縄文時代から近世に至る複合遺跡で、過去30年以上にわたって発掘調査を実施しています。近年では熊谷ラグビー場整備に伴い平安時代の集落跡や道路跡、円形区画墓などが確認される成果があがっています。

会場では、この北島遺跡のほか、妻沼の国宝「歓喜院聖天堂」のパネル展示や周辺の文化財を散策できるマップの配布などをおこないました。

また、映像展示として、熊谷市の文化財、北島遺跡の発掘成果、毎年開催している地域伝統芸能今昔物語の映像を放映しました。

会場の下には遺跡が広がっており、古墳があったり、人々が生活していた住居があったことを伝えると、来客者の多くが、驚いて興味を抱いてくれました。

外国からの来客者も多く来ていただき、特に映像展示で聖天堂が流れると「beautiful」との発言を多数いただきました。今回のPRで会場を訪れた多くの方々に、熊谷の魅力を知っていただけたのではないのでしょうか。なお、この映像はYouTubeにて公開予定です。(腰塚)



ロシア対サモア戦を記念してのロシア文学講座とお茶会

熊谷ラグビー場でのロシア対サモア戦当日の9月24日、熊谷市名勝「星溪園」で、ロシアの文学を代表する文学者で思想家のフョードル・ドストエフスキー(1821-1881)に着目した講演会と、記念茶会を開催しました。会場では、本年生誕100周年を迎えたロシア人画家のボリス・ヤコブレヴィッチ・リアウソフ(1919-1994)がドストエフスキー作品の登場人物を題材に描いた油彩画を本邦初公開しました。

お茶会ではラグビーボールを象った練り菓子が出されるなど、ラグビーワールドカップの雰囲気盛り上げていました。熊谷でのラグビー観戦に訪れたフランス人もお茶会に参加し、抹茶とお菓子を堪能されていました。(山下)



「熊谷染」・「熊谷型紙」フォーラム in 星溪園

熊谷ラグビー場でのラグビーワールドカップ 2019™ アルゼンチン対アメリカ戦当日の10月9日、熊谷市名勝「星溪園」で、「熊谷染」・「熊谷型紙」をテーマにしたフォーラムを開催しました。フォーラムでは、「熊谷染型紙」の文様を生かした星川を彩る「ウエルカムイルミネーション」のデザインを担当した熊谷明美さんを迎えて、熊谷版インスタレーション(空間芸術)と文化財としての「熊谷型紙」をテーマに対談がありました。

フォーラムは、ラグビー観戦に熊谷へ訪れたアメリカ人とアルゼンチン人観光客も参加し、約20名が熊谷染型紙のデザインについてその良さや美を共有する機会となりました。また、会場では熊谷さんが制作した着物、アートディレクションを行った熊谷型紙絵柄の商品や手拭い、熊谷染スカーフなどが展示されました。フォーラムの終了後には、熊谷で対戦するアルゼンチン代表にちなみアルゼンチン産の希少コーヒー豆のコーヒー試飲会が行われました。(山下)



市内遺跡発掘情報

前中西遺跡発掘調査—上之地区の地質と昔の地震—

4・5月に実施した前中西遺跡の発掘調査では、古墳時代後期と奈良・平安時代の集落を確認しました。衣川沿い右岸が調査地点でしたが、遺構がみられる土層（確認面）は砂礫がベースであり、一方、対岸である衣川左岸は確認面が粘土質の土層であることから、地層の違いが鮮明でした。上之地区は地理的な視点で見ると、荒川により形成された扇状地に立地しています。扇状地は河川による運搬・堆積作用により泥（粘土）と砂礫の地層が交互に堆積しており、その境目が表れたこととなります。また、衣川左岸は弥生時代の遺構が密集していますが、今回の調査地点である右岸では弥生時代の遺構は確認できませんでした。このように、時代によって土地利用の違いがあることは興味深いところです。なお、今回は噴砂現象の痕跡も確認されました。噴砂とは、地震による地割れから、液状化現象による大量の砂を含む水が吹き上がることです。噴砂の痕跡（右下写真）からは、地割れの発生するような大地震が過去にあったことがわかります。（蔵持）



池上遺跡発掘調査—地下水の豊富な遺跡—

池上地区では昨年度に引き続き、ほ場整備事業に伴う発掘調査を実施しています。調査開始間もないため、まだ全容が明らかではありませんが、現在までに複数の土坑、ピットが確認され、遺物も数点検出されていますが、時期は不明です。

また、調査箇所付近は地形の起伏があり、地形の落ち込みが複数検出され、河川跡か沼地が広がっていたものと推定できます。また、土層観察から近年まで調査箇所付近はヨシなどの茂る湿地帯であったことを裏付ける堆積も確認できます。周辺には、地元で呼称されている「ユガマ」や「イズミ」の名称を持つ場所が存在することから、池上の地名のとおり、地下水の豊富な自然豊かな地区だったものと思われる。最近の台風の影響もあり、調査開始から湧水による作業の遅延に悩まされていますが、無事に調査を終了し、改めて皆さんにその成果を報告できればと考えています。（腰塚）



連載 くまがやの古墳群

⑱ ^{おうじ}王子古墳群 —かつて1基の古墳の存在が知られた古墳群—

王子古墳群は、妻沼地域弥藤吾地区の福川左岸、妻沼低地の自然堤防上に所在する古墳時代後期に造られたと推定される古墳群です。唯一存在が確認された王子古墳は、宅地造成のための土取りに伴う発掘調査が昭和43年（1968）に実施され、現在は消滅しています。

王子古墳は直径約28.5mの円墳で、調査当時、埋葬施設である石室は既に破壊を受けており、出土遺物も確認されていません。したがって、具体的な時期は特定できません。しかし、角閃石安山岩が出土していることから、これを石室の構築材とした横穴式石室を持つ古墳であると推定されます。

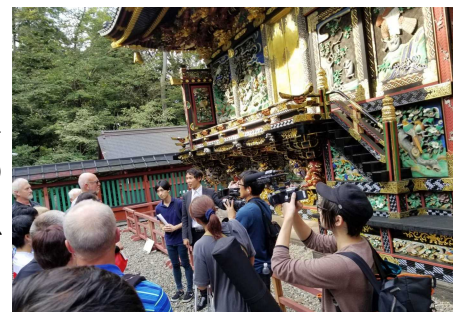
この時期の古墳は、大抵群をなして形成されていると考えられることから周辺にも古墳の存在が予想されますが、現在宅地などが多くを占め、他の古墳の存在が分からない状況です。この地は利根川の乱流地帯であることから、多くの古墳は、恐らく洪水により消滅したものと推定されます。（吉野）



調査当時の王子古墳（北から） 【『妻沼町誌』1977 妻沼町役場発行から引用】

◇ニュージーランド・インバーカーギル市民訪問団

9月23日、国宝「歓喜院聖天堂」で、ニュージーランド・インバーカーギル市民訪問団をお迎えしました。彫刻の見学のほか、御祈禱も行われました。ラグビーワールドカップの熊谷での試合開催に合わせたの来訪で、市民訪問団は市長表敬訪問や歓迎会に参加したほか、翌日以降、ラグビー観戦や市内外での日本文化を体験するなど、楽しく時間を過ごされました。(山下)



◇映画「一粒の麦 荻野吟子の生涯」上映会

9月1日、妻沼中央公民館ホールで映画『一粒の麦 荻野吟子の生涯』先行上映会が開催されました。荻野吟子の母・かよ役の磯村みどりさんや荻野吟子の姉・野口友子役の斉藤とも子さんら豪華な女優陣をはじめ山田火砂子監督の舞台挨拶が会場を盛り上げました。午前、午後の上演はともにほぼ満席となる多くの来場者がありました。

映画については、『一粒の麦 荻野吟子の生涯』公式サイト（現代ぷろだくしょん：<http://www.gendaipro.jp/ginko/>）をご参照ください。熊谷では10月26日からシネティアラ21で公開しています。(山下)



◇講座「碧梧桐と熊谷の文化史」

9月23日、熊谷市名勝「星溪園」の積翠閣において、俳壇史を学び楽しむ in 星溪園 熊谷青年会議所クールシェア版街なかゼミナール「碧梧桐と熊谷の文化史—現代俳句の系譜と民芸店「工藝」の文化振興—」が開催されました。会場では河東碧梧桐が揮毫した短冊を含む屏風を特別公開しました。屏風を前に、碧梧桐の俳句論などについて講演しました。また、屏風をかつて所有していた熊谷市本町の民芸品店「工藝」に着目し、熊谷の文化史とともに紹介しました。(山下)



◇本年度の埋蔵文化財整理調査について

本年度の埋蔵文化財整理調査は、以下5つの遺跡等について実施しています。

No.	遺跡名	所在地	発掘年度	調査原因	主な時代・時期
1	諏訪木（すわのき）遺跡 上之古墳群第3・4号墳	上之	平成20・25年度	土地区画整理	古墳前・後、奈良・平安、中・近世
2	諏訪木遺跡	上之	平成28・29年度	道路改良	弥生中・後、古墳前、中・近世
3	肥塚古墳群・肥塚館跡	肥塚	平成30年度	住宅建設	古墳中・後
4	三ヶ尻古墳群稲荷塚古墳	三ヶ尻	平成30年度	住宅建設	古墳後
5	緑川遺跡	妻沼	平成30年度	住宅建設	古墳前・中・後、奈良・平安

注目すべき成果としては、1は中世の埋蔵銭、2は古墳時代前期の方形周溝墓群、3は古墳時代中・後期の集落、4は古墳時代後期の横穴式石室を持つ円墳、5は古墳時代前期から平安時代までの集落などが挙げられます。現在、年度末の報告書刊行に向け、奮闘中です(松田)。

【文化財探訪 わが街熊谷遺跡巡り 中西遺跡】

現在、江南文化財センターでは、「中西遺跡 縄文時代後・晩期遺物包含層編」と題し、出土遺物の展示・公開を行っています。

中西遺跡の発掘調査は、上之土地区画整理事業に伴い、平成21～23年度の計3か年で行われました。調査の結果、縄文時代から弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代までの遺構・遺物がたくさん見つかりました。特に縄文時代は、遺物包含層（土器や石器などの遺物が遺構に伴わずに出土する土層）と呼ばれる層から縄文時代後・晩期（約3,500～2,800年前）の遺物が大量に出土しました。

中西遺跡は、市内東部では本遺跡東約1kmに所在する諏訪木遺跡とともに最古段階に相当する遺跡です。今回の展示では、その膨大な数のうち、ごく一部ではありますが、縄文土器や石器などを展示・公開しています。みなさま、ぜひ縄文人たちの息吹を体感してみてください。(松田)

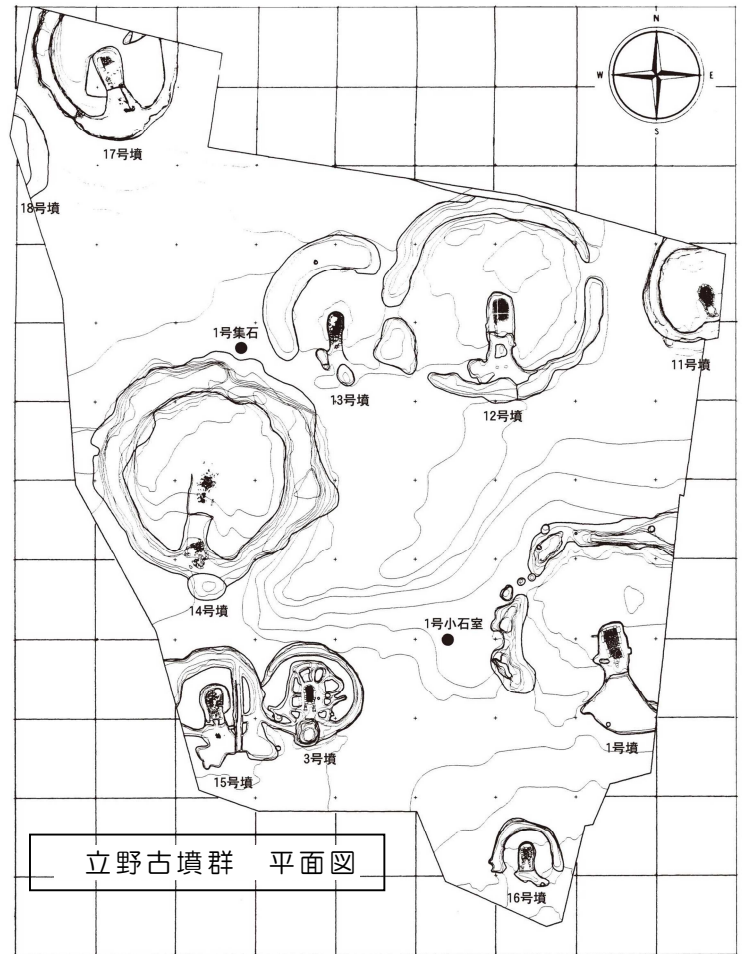


文化財コラム 空から見た遺跡—立野古墳群の距離感

立野古墳群は板井字立野に所在する小規模な古墳群で、出雲乃伊波比（いずものいわい）神社の西方に分布しています。平成14（2002）年度の発掘では横穴式石室を持つ円墳や多角形墳（八角形の可能性）から須恵器や鉄製武器・馬具などが出土しています。7世紀後半代から築造され八世紀前半まで祭祀が続けられていました。

古墳群を上空から見た平面図を見ると12号墳（直径26m）と13号墳（直径19m）は石室を同位置とし、古墳を取り巻く周溝は部分的に途切れ13号墳が12号墳の周溝を共有しています。この周溝形態は構築順を反映し12号墳が先に13号墳が後になります。他の古墳間が広くとられる中、石室の位置を同じくし寄り添うような墳丘は、両古墳の被葬者が近親者であった可能性があります。

12号墳は男性的な遺物（金銅製馬具）を出し、13号墳は遺物が少ないため性差を見ることは難しいものの、17号墳・14号墳出土の「紡錘車（撚糸を作る道具の一部）」は、女性的な遺物と理解されます。横穴式石室は追葬可能な家族墓とされますが、古墳時代も終末に近い立野古墳群では追葬の可能性は薄く、男女間の格差の少ない個人墓の様相があります。古墳間の距離は夫婦や親子など親族間の距離を反映するかのようです。同じ頃に作られた国史や万葉集、風土記などの記録には、連理の枝（樹木の枝などが絡み合い一本になったもの）、比翼の鳥（雌雄同体の鳥）などの男女間や夫婦間の絆の深さを示す記事がよく見受けられます。古代人の思いの一端が古墳の距離に表れていると考えることもできるのではないのでしょうか。（新井）



【マニアックな文化財メモ】金子兜太と美術史—兜太文学と美術史の系譜—

7月21日、熊谷市名勝「星溪園」の積翠閣にて、昨年没した俳人・金子兜太氏の生誕100周年を記念し、金子兜太氏の俳句文学と日本美術史の関わりを学ぶ講座「金子兜太と美術史—兜太文学と美術史の系譜をめぐって—」が開催されました。これは、熊谷青年会議所クールシェア版街なかゼミナールの一環として開催され、約20名が受講されました。また会場では、初公開となった金子兜太氏の揮毫額「記憶の町ちかし夕霧の猫も」のほか、熊谷を詠んだ俳句の扇子、金子兜太氏の俳句についてのガイドブック『青鯨は来ているのか』などを展示しました。（山下）



編集後記

「BUNKAZAI 情報」は、今回で第25号を迎えました。これからも熊谷市の文化財保護事業を分かりやすく皆様にお伝えする媒体としてご活用いただければ幸いです。

熊谷市はラグビーワールドカップ2019™の開催地都市として、国内外から多くの人々が訪れました。試合観戦と合わせて、熊谷の文化や歴史を発信する機会を提供することができました。文化財を通じた魅力発信やまちづくりなど、分野や領域を超えた「ワンチーム」として連携を進めていきたいと考えています。

皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。（山下）



発行：令和元年11月1日（2019/11/01）

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話：048-536-5062 FAX：048-536-4575 メール：c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>